

第3章 わかやまの自然と生活



日置川と古座川のダムと観光



山村の移り変わり

紀伊山地南部のほぼ中央部に
はてなし 果無山脈や おおとうざん 大塔山 (1,122m) がそびえています。果無山脈からは ひき 日置川、大塔山からは こざ 古座川が太平洋にそそいでいます。日置川も古座川も上流は雨が多いのでいつも豊かな水をたたえており、川すじの人々はこれらの川と深いかわりをもってきました。

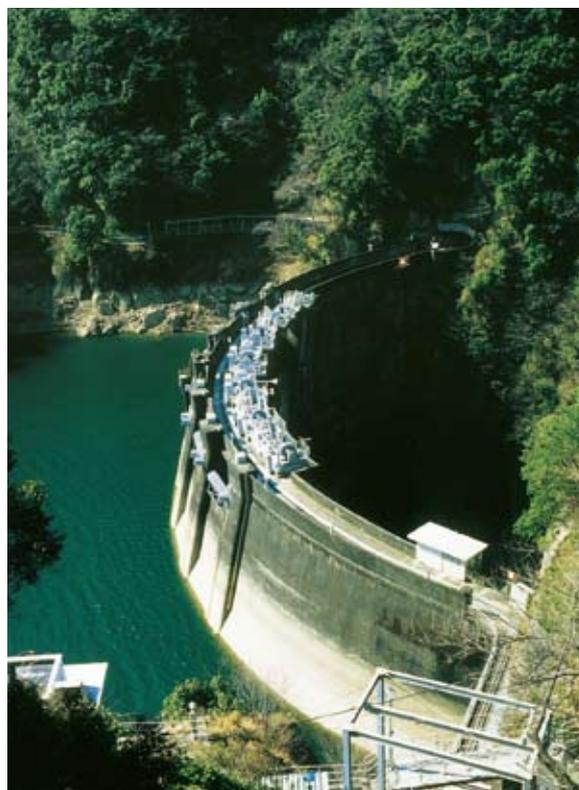
山村では林業がおもな産業です。道路が発達していなかった

時代には、川は交通手段としても大きな役割を果たしていました。熊野川は大きな川なので筏を組んで流すことができましたが、日置川や古座川は曲がりくねった川で、筏が組めず、「丸太流し」といって木材を1本ずつ河口まで流しました。*1 また、木炭などの林産物は底の浅い「平田船」という川船に積んで河口まで運びました。帰りの船には、米や塩、しょうゆ 醤油などの食料品を積んで川を上りました。しかし、道路ができ、自動車を利用できるようになると、平田船もしだいに姿を消しました。

1945（昭和20）年ごろから、この2つの川にダムを造る計画がもちあがりました。古座川では、和歌山県が古座川町の佐田に七川ダムを、日置川では、かんざい 関西電力（株）が田辺市の合川に どうがわ 殿山ダム*2を造り、水力発電所を建設するというものです。電気を送って きなん 紀南地域の人々に役立てる目的がありました。しかし、ダム建設によって丸太流しができなくなったり、アユが上流まで上れなくなります。また、住み慣れた村が湖の底に沈んでしまう



古座川の七川ダム（古座川町佐田）



日置川の殿山ダム（田辺市合川）

*1 管流しのことをこの地域ではこう呼んでいる。

*2 重力式コンクリートダムで、堤高58m、貯水量3,080万m³。

ことになるので、日置川でも、古座川でも、反対運動が occurred しましたが、七川ダムは1956年に、殿山ダムは1957年に完成しました。特に殿山ダムは日本で最初にできたアーチ式ダムとして注目を集めました。

発電所の建設によって、そのころ不足していた電力を補うことができました。日置川では、1958年の集中豪雨のときに、ダムの放流によって下流の村や町が大水害を受けました。その後、河川の改修を進めるとともに、ダムの放流時には警報などで知らせて安全を図るようにしています。

山村の観光と物産

日置川流域は、1971年に大塔日置川県立自然公園に指定されました。なかでも上流の百間山溪谷は、約3kmにわたって滝や淵、甌穴などがあり、1966年に県名勝・天然記念物の指定を受けました。川沿いの自然林には、ニホンカモシカ（国指定の特別天然記念物）がすみ、百間山溪谷の入口には、カモシカ牧場がつくられています。

ニホンカモシカは、本州・四国・九州の山地に多く生息しており、大塔山には数百頭がいるといわれています。ニホンカモシカは親子連れか1頭だけで500~1,000m四方の狭い範囲で一生を過ごすのが特徴です。

山村の産物として、日置川上流の山地では、シメジ・シイタケ・サカキ・シキミが作られ、谷間ではワサビも栽培されています。また、田辺市平瀬では、品質の良いシシトウを露地やビニルハウスで栽培し、京阪神に出荷しています。中流の白浜町市鹿野は、古い歴史をもつ川添茶の生産地です。



百間山溪谷（田辺市熊野）



百間山のカモシカ牧場（田辺市熊野）



川添茶（白浜町）

古座川沿いの古座峡から太地町の浦神までは、熊野酸性岩という火成岩が弧状に分布して、古座川の一枚岩（国指定の天然記念物）や天桂岩、少女峰など美しい景色が見られます。

この古座川流域では、ユズの加工品・シイタケ・備長炭などの特産物も有名です。

* 1 ダムをアーチ形にして、水の圧力を兩岸の岩で受け止め、コンクリートの使用が少なくすむ方法。

* 2 第1編 第1章「大地からのおくりもの」21ページ参照。